

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	季節に応じてできる限り地域に出て散歩をしたり、懐かしい町並みを思い出して昔を思い出して、ここ(ホーム)にいてもいいんだと心から思えるような生活支援ができるよう心がけたい。	○	理念の構築。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勉強会のたびにその姿勢、役割について触れ自分たちのやっていきたいケアとしてどのように関わっていけば良いのか話し合った。今年度はもう一歩深めた理念を考えていきたい。今は職員トイレに掲げてあるが堂々と玄関に掲示できるようにしていきたい。	○	理念の構築。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	昨年に引き続き徐々に目的を考え深めていきたい。	○	全職員がグループホームの目的を理解できるように進めていく。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の散歩の中で気軽に挨拶したり、農作物、苗など分けていただいたり野菜の作り方など指導を頂いている。利用者関係の訪問は行われているが、近隣のお年寄りが気軽に行けるような日常的な付き合いができるように努めたい。	○	地域へ積極的な働きかけをしていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りには地域の子供会や、婦人会の参加が得られている。老人会主催のお花見の呼びかけに利用者と一緒に参加している。	○	町会、自治会への活動、交流を積極的に行っていく。

グループホームハーモニー(1F フルーツ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の民生委員、家族の会の方々を中心に認知症の理解や接し方の勉強会を行った。介護福祉学生、看護学生の実習生や、ボランティアなど積極的に受け入れている。	○	老人会、地域に向けた認知症の理解、学習会、介護教室など協力を頂きながら積極的に計画していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	それぞれのユニットの職員が役割を持ち全員で検討し意義を学んだことでケアの振り返り、見直しや、意識あわせを新しい職員も含め改善に向けて具体策の検討や実践につなげるための努力ができた。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年2回の会議において取り組みの状況の報告会を行い指導、支援を受けている。ホーム発行の新聞発行を年2回行い取り組み状況の理解を得ている。	○	会議にとどまらずホームの表情が見える場面への参加を計画していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	松本市主催の研修会の参加、サービスについての助言、指導など連絡調整を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	人権擁護研修、身体拘束の研修など積極的に参加し、職場において伝達講習を行い知識の理解に向けた学習会を行っている。	○	新しい職員に対し学習会、ミーティングのたび折に触れて指導、理解を深めていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス、学習会の中で一般的な虐待について知識を深めている。虐待の中にも物理的なものばかりでなく言葉によるもの、過剰な抗精神薬などにも存在するものとして職員の中で知識を共有し予防に努めている。	○	勉強会の企画の継続。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	各書類ごとにリスク、料金についての必要な説明を行っている。看取りについては一般的な説明は契約時行っているが症状にあわせてその都度説明も加えていく。医療連携体制の実際については利用者の変化があるたび連絡報告を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんの日ごろの言葉、表情などから不安をくみ取り軽減に努めていく。苦情報告によりできる限りの改善策につなげるよう努力している。	○	介護相談員の派遣を依頼した。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の健康状態の変化に応じて家族への連絡を行っている。生活記録を参考にしながら日常生活の暮らしぶりを理解していただいている。金銭管理は出納長に記入しサインを頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に対し満足度調査を行った。常に苦情、意見など受け入れられる体制をとっている。家族の面会時にできるだけ要望を確認するよう心がけている。	○	家族会の検討。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーテングは3ヶ月に一度のほかには学習会、カンファレンスなどで職員が顔を合わせ、互いの意見交換ができる機会を多く持つよう心がけている。要望があれば早急に対処し、改善に向けた努力をしている。		

グループホームハーモニー(1F フルーツ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		

グループホームハーモニー(1F フルーツ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個人で目標を決め、管理者による定期的な個人面談を行い、業務の悩みを把握している。 研修、勉強会への積極的な参加、資格取得への支援を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態を把握するよう勤め求めていることや不安を理解しようと努力している。また本人がデイサービス・老健などのサービスを受けていた場合、信頼関係が持てるような関わりを多く持つよう努力している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの介護支援についての相談を受けるにあたって、現在の不安、困窮など傾聴し、認知症の理解、介護支援や、福祉利用の方法にわたり支援できるよう心がけている。		
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの要望に緊急性がある場合、他のグループホームの空き情報、デイサービス、保健施設など紹介応じたり、悩み、苦境に対しての生活支援に心がけている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所希望に応じて事前に、見学や、会話の中で理解していただく。入所後の緊張時は特にマンツーマンで関わり少しずつ環境に慣れていただけるよう心がけている。老人保健施設、デイサービスを利用し待機しているときに時々遊びに来ていただくなど馴染んでいただけるようにしている。		

グループホームハーモニー(1F フルーツ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が新聞や、テレビ、コンサート会場を通じて得たコンサート、舞台の希望などできるだけ応じられるよう努力している。昔から言い伝えられている格言、農作業の手順など生活の中から学ぶことが多い。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に生活記録と一緒に見ながら、グループホームの生活を理解していただき、過去の歴史情報や好みなど新たに気づかされることが多い。運動会、文化祭などの行事では家族と一緒に楽しい時間を過ごすなど協力を呼びかけている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個人の日々の様子を写真にまとめた記録や、定期的な新聞の発行で家族に様子を伝えている。家族からは少し距離を置くことで面会時にはとても優しく接することができるようになったと意見が聞かれることがある。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院、知人の義理が生じたときの墓参りの希望などがある場合はできる限りの支援に心がけている。知人、友人の面会時など野菜のおすそ分けをしたり、漬物をいただくなど気軽に訪問していただけるような雰囲気づくりに心がけている。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	互いに気遣い励ましの言葉など自然な会話が出来るよう歌、散歩などして親近感が保てるように勤めている。心身の状態や気分感情で日々変化することもあるので注意深く見守っている。	

グループホームハーモニー(1F フルーツ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	老健に退所された後も互いに訪問していただいたり、声を掛け合ったりしている。自宅へ退所された方にはその後の生活支援など行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の程度をアセスメントしながら自己管理できる場合はその人の生活パターンを尊重している外出、ドライブ、買い物、状態に合わせて散歩をするなど希望や、できる限りの要望を取り入れていくよう心がけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	義理を重んじる方には希望に添えるよう慶弔の参加も対応している。時々住んでいた近くへのドライブを兼ねながらスーパーへの買い物や、公園などに出かけて昔を懐かしんでいたように心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事づくり、片付け、モップがけ、洗濯物をたたむなどその人の力に合わせた対応。天気のよいときの散歩、ラジオ体操などにより身体機能低下の予防に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの落ち着いた生活を望まれる意見の反映に勤め、3ヶ月に一度の介護計画を作成し。事前に担当スタッフによるモニタリング、全員によるカンファレンスを行っている。日々問題点があればその都度意見交換を行い計画に反映。		

グループホームハーモニー(1F フルーツ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者さんの体調の変化が見られるときは職員間で意見交換を行い、毎日のケア対応に遅れないように心がけているが介護計画記録の変更まで至らないことがある。家族への説明は変化があるたびに行うようになっている。	○	できるだけ迅速な計画記録の対応を心がけていく。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルごとの生活情報の記録や利用者全員の様子が人目で理解できる用紙の作成し、すべての職員が把握しやすいようにしている。さらに認知症の状況によって記録の見直しを行い、行動、精神、清潔、食事、医療などに分けて記録し、状態が把握しやすいようにした。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	2週に1回の割合でホームドクターの回診があり利用者の表情などを常に観察し健康への安心できる体制づくりに心がけている。	○	3年が経過し、通所サービス、短期利用についてどのようにしていくか検討。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の消防訓練、地域の消防団による合同訓練など行っている。ボランティアによる踊り、歌、アニマルセラピー、美容講習などの協力が得られている。新橋老人会から花見、健康教室の協力により利用者さんと一緒に参加している。	○	地域への働きかけがまだ少ない。認知症の理解を得るためには積極的な関わりが必要。勉強会、ホームへの訪問などを通じて協力が得られるような働きかけをしていく必要がある。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	松本市内のグループホームと情報交換、相互評価をしたり、全員が他施設の1日研修を経験し、日常生活ケアの質の向上に努めた。ボランティアを多く受け入れる、老健との合同行事によるサービスを行っている。		

グループホームハーモニー(1F フルーツ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議をきっかけに地域への認知症勉強会の要請があり実施したり交流を図っている。これで良しとしないで常に交流を進めていく必要がある。	○	困ったときばかりではなく常に相談、情報交換を行い生活支援の幅ができるような姿勢を作っていく。
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみのかかりつけ医を希望される方は家族の協力の下受診している。また家族の都合が悪い場合は事業所が付き添いをしている。緊急時はホームドクターと相談の上、家族に連絡し、病院受診、検査、治療など事業所で対応している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	連携医師が講師として勉強会、事例検討会を開催して助言が得られている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	常勤の看護職がいるため、日々利用者の健康管理が介護職との情報交換により連携をとっている。また体調を崩したときにホームドクターとの連絡調整が密に行われているため早期対応ができています。(点滴、内服、感染防止など)		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には定期的に病院訪問を行い、利用者の状態確認をリアルタイムに受けながら退院後の介護に必要な学習会を行い早期から準備している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する施設方針は定められているが、個人ごとの具体的な家族との相談、確約までにはいたっていない。利用者さんには日ごろ機会があるたびに言葉でそれとなく意向を確認している。	○	変化がある場合はその都度個々に応じてホームドクターと家族と相談の上終末期に向けた方針をスタッフ全員が共有していく。

グループホームハーモニー(1F フルーツ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	終末マニュアルの作成。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	記録物はその都度カウンター内に収納し、人目に触れないようにしていく。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		

グループホームハーモニー(1F フルート)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		

グループホームハーモニー(1F フルーツ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		

グループホームハーモニー(1F フルーツ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた行事の企画(初詣、花見、白鳥を見る、紅葉狩り、外食)を行い皆で外出を楽しめるようにしている。家族の協力により気分転換が得られている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方にはその都度対応したり、毎年年賀状を出すための支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	隣組や友人が訪問しやすい環境づくりに心がけている(大根の収穫時にはおすそ分けをしたり、頂いたり)散歩の途中で野菜を分けていただくこともある。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実際のケアにおいての身体拘束は行われてはいないものの、経験の違いによりまだ身体拘束について正しい理解がなされていない現状もあるため勉強会の企画が必要(身体拘束、権利擁護についての研修は参加している)。	○	勉強会の企画。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者さんが外出の要望や、行動を察知した場合はムリに引き止めるのではなく、可能な限り一緒についていけるよう心がけている。玄関施錠は夜間以外かけていない。		

グループホームハーモニー(1F フルーツ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はリビングルームを中心に全員の様子を把握するよう努め、スタッフ全員が見守りできるように配慮している。夜間は頻回の巡視を行い危険の防止を図ったり、常に見渡せるところで過ごすなど工夫している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	スタッフが少ない夜間では危険なものは倉庫に整理したり危険な薬品などは目につかない戸棚に収納している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日ごろの運動の中で、バランス訓練、筋トレを行い転倒防止に努めている。ヒヤリハットや事故報告の対応策をスタッフ間で共有し再発防止に取り組んでいる。ガス元栓、包丁、戸締りなど夜間の事故防止チェックリストを作成している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時、事故時のマニュアルあり。常勤の看護師により急変、緊急時の連絡が出来るような対応がある。常に発生している意識レベルの低下が見られる方への対応は徹底できている。救命救急の講習は年1回行われ多くの職員が受講している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災時対応のマニュアルを作成しており、火災報知機の近くに置き全員が確認できるようにしてある。年1回地域の消防団の協力を得、災害時の非難訓練など利用者を交えて行われている。防災頭巾、ヘッドランプ、簡易担架など常駐している。	○	マニュアルの確認作業、非難訓練、火災報知器、消防署への連絡手順などスタッフ全員にいきわたるような訓練を毎月定期的に行う。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一度発生してしまった事故に対して全員で情報を共有し、対応策を検討し再発しないように勤めている。転倒があった場合は家族に必ず連絡している。出来るだけ本人の希望する行動が妨げられないよう対応策をこまめに行っている。		

グループホームハーモニー(1F フルーツ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の体温測定、週1回の血圧測定、食事量のチェック、表情の観察など行う。そのほか体重チェック、病状に合わせた血圧測定など定期的にチェック。インフルエンザ予防接種、肺炎ワクチン接種、年1回の高齢者健康診断を行っている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は看護師の指示の元に確実に内服できるように支援している。常に特別な内服については副作用について説明を受けている。症例別に内服の作用、副作用など勉強会を行った。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状況の観察を行い、日常の状況を観察しながら下剤の調整を行っている。毎日のおやつに手作りヨーグルト、繊維の多い料理作り、水分調整などに考慮している。また散歩、ラジオ体操など適度な運動を行い便秘の予防を行っている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自己管理できない方への支援としてリビングの洗面所で口腔ケアができるようにし、磨き残しなどチェックしている。自己管理している方へ忘れないように声を掛け手順を説明するなど心がけている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は毎食、おやつ時に2杯以上は飲めるよう支援している。飲水が少ない場合チェックリストを作りスタッフ全員が1日の水分量がわかるようにし、夜間を通じて1000ml以上確保できるようにしている。	

グループホームハーモニー(1F フルーツ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	石鹸を使った手洗い、うがいの励行、マスクの着用、汚染対応時のゴム手袋の使用などマニュアルに沿った消毒処理の方法を実行。利用者さん全員のインフルエンザ肺炎ワクチンなど予防接種を行っている。職員はインフルエンザ予防接種を行う。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の賞味期限の確認をするとともに実際の鮮度の確認、調理器具、布巾などの消毒の徹底。冷蔵庫は清掃日を週1回の計画で実行。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は出入りしやすいように広いスペースをとり、生け花、人形、作品などを置き温かみがもてるような配慮をしている。玄関先にはベンチを置きいつでもくつろげ、玄関先のスペースの花壇には花がいつでも咲いているように工夫した。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所作業では大きな音を立てないように心がけている。行事の写真、季節に合わせた展示物、自分たちが作った作品などを飾る。各個室には自分の作品が貼れるようなボードを設置。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き洗濯物をたたんだり、人の気配がするところで横になったりして過ごしている。		

グループホームハーモニー(1F フルート)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具、柱時計、仏壇など持ち込んでいる。コタツを置き仲良し同士が互いの部屋でコーヒーを入れたり、お茶を入れたりして会話を楽しんでいる。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入替えに気を配るとともに、利用者さんの体調に応じて温度調整を部屋ごとで行っている。	○	居室の床暖房、エアコンなどで乾燥が激しく加湿対策として濡れタオルで対応しているが不十分。検討が必要。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリー化対応になっている。廊下には手すりが設置してある。廊下の1mm程度の段差に躓くことが見られたため目立つ色で躓き防止のテープを使用した。出来るだけ散歩が出来るよう支援している。シルバーカー、車椅子などを個人の状態に合わせて使用。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレと自室の扉の色が同じで混乱するためトイレには大きな字で目線にあたりやすい場所に表示した。不安の表出が強い方には出来る限りマンツーマンで寄り添い安心が得られるよう取り組んでいる。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには生活感を持てるよう洗濯物干し、布団干しなど行っている。季節に応じて干し柿をつるしたり窓から見える桜を楽しむことが出来る。散歩の帰りに野菜の収穫、花を摘んだり、芝生の上で食事会をして楽しんでいる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○をつけること)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない

グループホームハーモニー(1F フルート)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○をつけること)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

生活記録; 日常の行事、生活の表情を写真に撮り、個人ごとのノートにアルバム形式で作成し家族が普段見られない表情をお知らせし、ホームの生活を理解していただいている。また利用者さんが写真を見て過去をふりかえる階層峰の役割を担っている。

健康管理; 体力の維持を目的に1年を通じて天気の良いときは1週間に3~5日間は散歩を行い毎日ラジオ体操、ストレッチなどで筋力アップに向けたトレーニング、バランス訓練を行っているため比較的日常生活の自立度は保っている。

レベルに合わせた作業; 刺し子、貼り絵、新聞の芯巻きなどにより作品をつくりあげ生活の張りを保てるようにしている。